

水産の窓

令和3年漁期の底びき網漁業の漁模様

令和3年漁期（令和3年9月～令和4年6月）の本県沖の底びき網漁業（沖底・小底）の漁模様について報告します。漁獲量の集計は県水産試験場漁獲管理情報処理システムで行い、銚子水揚げ分も含めて集計しました。

1. 漁獲量及び水揚金額

令和3年漁期の漁獲量は約2,500トン、水揚金額は11.3億円となり、漁獲量、水揚金額ともに前年漁期と比べて減少しました（図1）。

震災以前の漁獲量は2,000トン前後、水揚金額は7～10億円で推移していましたが、震災後は2,500トン前後、12～14億円で推移しており、令和3年漁期も概ねこの傾向が続きました。

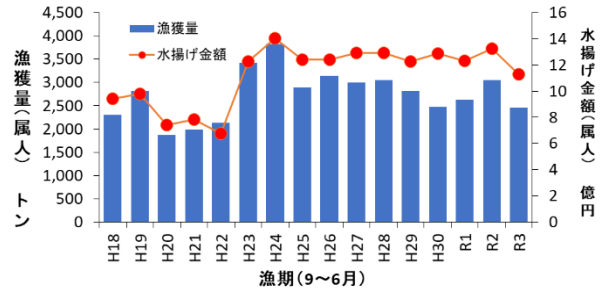


図1 底びき網漁業の漁期別漁獲量と水揚金額の推移

2. 漁獲量及び水揚金額で主体となった魚種

令和3年漁期に漁獲量が多かった上位5種は、1位ヤリイカ682トン（前年漁期1,310トン、1位）、2位メヒカリ345トン（同320トン、2位）、3位ヒラメ98トン（同89トン、7位）、4位アナゴ96トン（同129トン、4位）、5位スルメイカ83トン（同212トン、3位）でした（図2）。前年漁期に比べると、メヒカリとヒラメは増加、ヤリイカとアナゴ、スルメイカは減少しました。

水揚金額の上位5種はヤリイカ、メヒカリ、ヒラメ、ナマコ、アナゴの順となり、前年漁期に比べてメヒカリとヒラメ、ナマコの3種が増加しました。

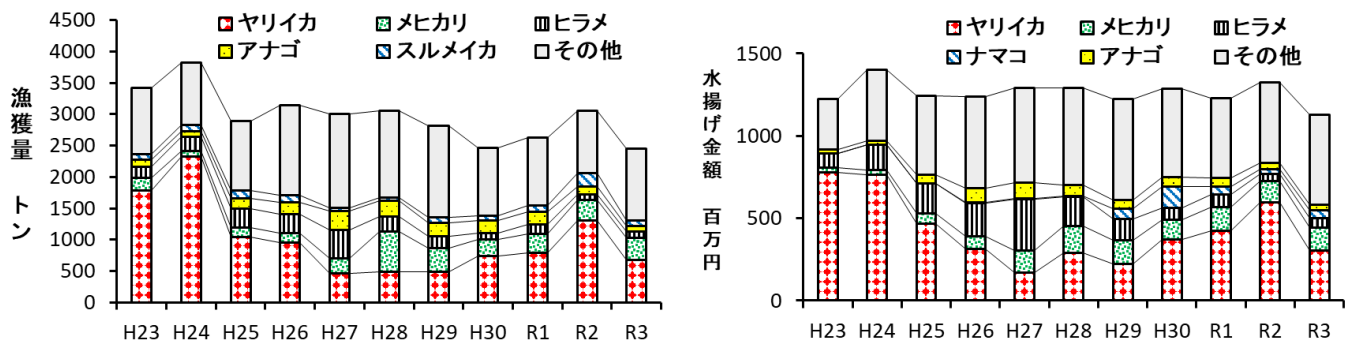


図2 漁獲量及び水揚金額で主体となった魚種の推移

3. 三陸から鹿島灘海域におけるヤリイカの漁獲動向

宮城県から千葉県への令和3年漁期ヤリイカの漁獲量（全漁法）は約2,900トンで前年漁期と比べて約600トン減少しました。4県のヤリイカ漁獲量は平成26年漁期以降1,300～3,500トンの間で変動しており、令和3年漁期もこの傾向が続きました（図3）。宮城県は、平成28年漁期以降に増加し、平成30年漁期は約2,100トンの漁獲がありましたが、令和元年漁期以降は減少して令和3年漁期は約1,500トンに留まりました（図3）。茨城県・千葉県は前年に比べ12月と1月に漁獲が伸びず、令和3年漁期は約1,200トン（前年漁期約1,700トン）となりました（図3、4）。

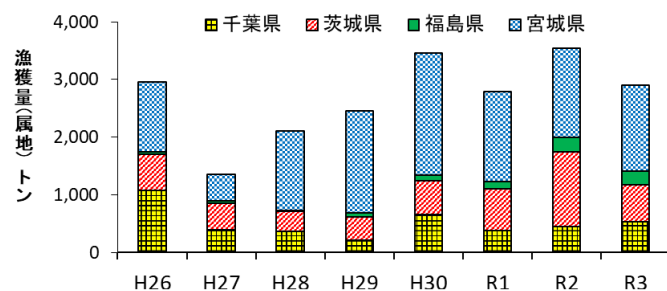


図3 県別ヤリイカ漁獲量の推移

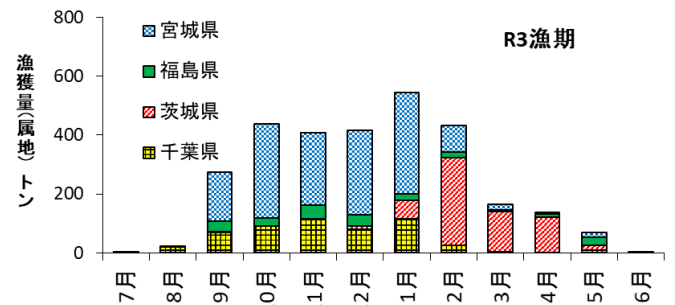


図4 県別・月別ヤリイカ漁獲量の推移

【次回予告】令和4年7月29日発行の水産の窓は「春シラスの漁況結果と秋シラスの予測」を予定しています。